

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H30.11.7	市政懇談会	田瀬	総合政策部	秘書政策課	ILC構想について	ILC構想について花巻市はどのように考えているか。ある情報によると田瀬は工事関係者の居住地候補地に上がっているという話が聞こえてきている。	国際リニアコライダー(ILC)は、2004年に世界の高エネルギー物理学研究者や加速器研究者で構成される国際将来加速器委員会(ICFA)において、国際協力のもと世界に一つ建設することが合意された。世界最高・最先端の電子・陽電子衝突型加速器である。ILCは海抜約110m位の山腹に全長30～50kmにわたって掘られた巨大トンネル内に建設されるもので、2004年にICFAが計画を承認。当初の計画では、本体建設費と測定器関係経費で1兆912億円、年間運転経費は491億円が見込まれていたが、多額なコストが課題であったことから2017年、ICFAにおいて初期整備延長を当初計画の30kmから20kmに短縮する計画が承認された。この見直しにより1兆円を超える建設コストが8千億円程度に圧縮されることになったが、ICFAからは「日本の主導で早期に実現してほしい」という声明が発表された。 この間、国内においては2013年に日本の研究者によるILC立地評価会議が、国内のILC立地候補地に岩手県南部から宮城県北部の北上山地を最適とする評価結果を公表した。ILCの建設には活断層のない固い安定した地盤が必要で、しかも20kmから50kmもの距離を確保する必要があるとのことであり、本県の奥州市・一関市から宮城県気仙沼市にまたがるエリアは強固で安定した花崗岩の岩盤が分布しており最適な場所となっている。 国際的な協力を得てILCを推進するためには、12月までに政府方針を決定していることが必要と言われている。ILCを所管する文部科学省では、見直し後のILC計画における学術的意義や建設及び運営に必要な予算などについて日本学術会議に審議を依頼しており、日本学術会議の中に検討委員会を設置し現在詳細な審議が行われているとのことである。 岩手県においてはILCの実現に向けて政府や与党に対する要望活動や展示施設開設等によるPR活動のほか、関係市町村と連携して様々な活動を展開している。 本市の取組状況については、県内の商工団体を中心に組織される岩手県国際リニアコライダー推進協議会に加盟している。同協議会ではILC誘致に関するシンポジウム開催、リーフレット作成などにより誘致活動に取り組んでいる。平成28年12月に同協議会が支援してリニアコライダー・コラボレーションが主催したリニアコライダー・ワークショップ2016には、世界中のリニアコライダー研究者が集い最新の研究や技術の発表・意見交換が行われたが、上田市長が出席した。 また、中学生を対象としたILCセミナーや小学生を対象としたILCサイエンス教室に市内の子どもたちが参加したり、絵画コンクールの入賞作品の展示をイトーヨーカ堂で開催したり、県南広域振興局と本市が共催するなどの取組を行っているほか、ILC誘致の勉強会を県南広域振興局・花巻商工会議所と本市が連携して開催している。 田瀬地区がILCの工事関係者の居住候補地に上がっているという話については、本市ではそのような情報について認識しておらずであり、岩手県においてもそのような情報は把握していないということであった。政府の国内誘致の可否をはじめとした今後の動向を引き続き注視してまいりたい。
2	H30.11.7	市政懇談会	田瀬	建設部	道路課	県道下宮守田瀬線の整備要望活動への支援継続について	県道下宮守田瀬線の整備要望については、市からの支援もいただき進めているが、要望実現には沿線の遠野市の協力も必要と考え、昨年から一緒になって取り組みをしており今年の2月に岩手県へ要望活動を行っている。田瀬地域の長年の悲願であり、要望実現までには相当時間がかかると思うので、今後とも市の協力をお願いしたい。	県の道路整備の予算は、現在、復興事業が中心となっており内陸部の道路整備事業は抑制されている状況であることから、復興事業に目途がついた際には、内陸部の道路整備予算について復興前の状況に戻していただくことをお願いしている。市としても今後も地域の要望活動等について支援を継続していく。
3	H30.11.7	市政懇談会	田瀬	地域振興部 東和総合支所	地域づくり課 東和総合支所地域振興課	地域の人口減少にともなう、既存団体・組織の見直しについて	地域には様々な団体や組織があるが一つ例をあげると、東和地域の婦人消防協力隊について、組織の重要性は理解するが、地域の人口が減少してきている状況で、この他にもさまざまな団体の役割が回ってきて、それにも従事しなければならない。しかも、若い方々がそれに従事していただければいいが、実態として追いついていかない状況である。様々な団体があるが、地域住民が減っていく中で維持していかなければならないことについて、新たな手だてを講じていく必要があると考える。	婦人消防協力隊に限らず地域に関係した団体・組織を見直すのは長い期間が必要であると認識している。消防団の組織見直しについても相当な期間を要している。田瀬地域でも様々な組織があって、一人の人が複数の役職を兼務して大変苦労をされている。これについては、コミュニティ会議と話し合いするだけでは解決に至らないと考えていることから、市としても地域振興部を中心に地域の団体・組織をどのようにしていくか、地域アドバイザーや団体・組織の長の皆さん等からご意見を聴きながら少しずつ話し合いを進めている状況である。時間はかかるが今後皆さんからもご意見をお聴きする機会もあると思うのでその際には、地域の実情等をお話いただければと思う。
4	H30.11.7	市政懇談会	田瀬	建設部 健康福祉部	都市政策課 長寿福祉課	土日に町の中心部で行われるイベント等への高齢者の移動方法確保について	市営バスが廃止になり予約乗合バスになったが、土・日曜日の運行がないため車を持たない高齢者の方は、町の中心部で色々な行事があっても出かけられない。出かける際は、誰かに頼んで乗せてもらうしかない。例えば、今度チャリティー芸能大会があるが東和では入場者も少なく非常に収益が少ないということで、皆さんぜひ来てくださーいと言われるが行くことが困難である。土・日曜日の移動方法の確保について、何か考えていただけないものか。	田瀬地区は予約乗合バスを多くの方に利用をいただいている状況である。今後予約乗合バスの対象地域が増えていくため予算も最終的には、1億円を超えると見込んでおり、土日まで運行するのは難しいと考えている。他の地域では、市の介護予防事業を利用し、高齢者の方の移動方法を確保している例もある。 田瀬地区に限らず、東和の他の地区でも同じような問題を抱えていることから、どのような方法があるかコミュニティ会議の皆さんとも知恵を出し合って一緒になって考えていく必要がある。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H30.11.16	市政懇談会	花西	地域振興部 生涯学習部	地域づくり課 生涯学習課	花西振興センター複合施設の建設について	花西地区への複合施設の建設は、初め平成22年10月に提出し、平成28年2月再度要望している。当協議会は、振興センターの事務室と会議室として利用できる部屋が1室あるが、地域住民の活動のための集会所として利用することができないため文化会館などを利用している状況である。スポーツ活動等の様々な行事や生涯学習等の地域活動など交流を図れる施設が当地区にも必要であると考えている。 なお、総工事費等を考慮し、現在地に複合施設の建設を検討していただきたい。	平成28年に要望書をいただいた段階では、「花巻図書館が中央地区に移転した場合、現在の図書館施設の活用や文化会館を含めて花西地区の公共施設をどうしていくのか考えていく必要があると思うが、具体的には花巻図書館移転の構想や方向性がある程度固まってからになると思う」と、回答している。現段階では図書館の移転時期が明確になるのは、まだ時間を要すると考えられる。その間の安全を考え、まずは振興センターの耐震調査等を行い、その結果を踏まえながら、現在の振興センターに対する対応を考えてまいりたい。その上で図書館の移転も考慮しながら、花西振興センターの在り方も検討してまいりたい。 花巻図書館の計画については、現段階で図書館の整備の基本構想を平成29年8月に策定し皆さまにもお示ししている。立地適正化計画において施設を街中への集約を進めているが、今の予定では、花巻駅から東側の花巻中央地区に花巻図書館の建設を考えている。 花巻図書館は中央図書館という意味合いもあり、旧3町(大迫・石鳥谷・東和)地域からも行きやすい場所となるが、利便性を考えると、できれば花巻駅に近い場所が良いと考えている。まだ、建設時期までは明確にお話しできないが、これらも踏まえた上で検討していきたい。
2	H30.11.16	市政懇談会	花西	地域振興部	地域づくり課	自治会における役員の担い手不足等の課題解決に向けた取り組みについて	自治会の大きな課題は、役員の担い手不足である。昨今、自治会を取り巻く環境も変化し、必要性が薄れてきており、当地区の実際の加入率は90%前後で推移している状況。例えば、盛岡市では、自治会の加入率や会費等を市のホームページで公表したり、現役やOBの市職員が自治会に入り、活性化のための事業を立ち上げて活動したり、市民が市の窓口に入居届を出した際に、自治会の活動を記載したパンフレットを渡しているようだ。花巻市ではこのような取り組みはされておらず、あまり市と自治会との連携がとれていないと感じている。花巻市でも行政と自治会が互いに連携することで活動が盛り上がり、これらの解決に向けた取り組みについて市の考えを伺いたい。	盛岡市では自治会へ広報等の配布を委託しているが、花巻市の場合、区長を通じて市の広報等の配布や地区の取りまとめをお願いしており、盛岡市とはやり方が違うため、市では自治会と関わっていないので加入している割合や実態等は把握していない。 人材、担い手不足は自治会に限らず、コミュニティ会議でも役員が不足しているという話は多く伺っている。市では、地域づくりには、特に若い世代の参加が大事であると考えており、他の取り組み事例等も調査して、市民の皆さまに情報発信していきたいと考えている。また、役員の負担も大きいということで、各種団体も含め地域づくりの仕組みの見直しを検討している。これは、直ぐに結論が出る話ではないが、市民の皆さまの意見もお聞きしながら、地域としての役割がどうあるべきか考え検討を進めていきたい。 花巻市の場合、地域で自治会の役割が違っている。例えば、花西地区は行政区長と自治会は別の組織だが、他の地域では、同じ人が行政区長と自治会長を務めているところや自治公民館が様々取りまとめしているところもある。 これまで花巻市では、行政区長を窓口としており、自治会はあくまでボランティア組織のため直接関わっていないというスタンス。地域によって、行政区長と自治会の関係も違い、コミュニティ会議と自治会の関係も整理されてない。一方で、コミュニティ会議も含めて各種団体の役員のなり手がおらず大変な状況になってきている。そのため市では、岩手大学の教授等の専門家に任せてもらい、地域の方々やコミュニティ会議の関係者等とワークショップを行い、少しずつ話し合いを進めようとしている。だが、地域には、様々な組織があり、地域毎でやり方も違うためコミュニティ会議の在り方だけ考えても解決するものではない。相当難しい話になると思うが、これは市でも非常に問題意識を持っており、時間はかかるかもしれないが、皆さまからご意見をいただきながら話し合いを進めていきたいと思っている。
3	H30.11.16	市政懇談会	花西	地域振興部	地域づくり課	自治会の実態調査について	市でも、まずは自治会の実態調査をしなければ次の段階には進めないと思う。例えば、加入率や活動内容等について調査いただき、自治会の実態を把握していただくようお願いしたい。	東和町に地域づくりを研究されている方がおり、研究対象として以前、旧3町は相当時間をかけて調査しているが、花巻地域は、あまり調査されていない。自治会だけでなく、各組織の在り方については、実態を把握しないと進められないと思う。御意見いただいたとおり、ぜひ考えたいと思う。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H30.11.16	市政懇談会	花西	建設部 生涯学習部	公園緑地課 生涯学習課	市民の家及び馬面電車の活用について	「市民の家」「馬面電車」の観光客が増えてきており、「市民の家」内でのパネル展示や「馬面電車」の開放など何かしらの取り組みが必要ではないかと思うが、市の考えをお伺いしたい。	市民の家は、地域の方々を中心に非常に利用されており、花西地区まちづくり協議会の皆さまには、市民の家と花巻電鉄の紹介パネルを作っていただいたところ非常に好評で感謝申し上げます。駐車場を整備することからも、他に市民の家の中で何か紹介すべきものがある場合には皆さまの御意見を聞きながら検討していきたい。 材木公園の馬面電車は、希望があった場合に職員が立ち会いのもと、囲いの鍵を開けて見学できるような形で開放しているが、車体の木製扉が開きづらく、車内の床も老朽化により強度が不安となっていることから、年内に補修することで業者に発注済みである。また、車体が東側に少し傾いているが、補修するためには、囲いがあるので車体を持ち上げて枕木及びレールの補修が必要のため修理の方法については、今検討しているところである。平成29年度は、3件の申込みがあり69人が見学。平成30年度はこれまで2件の申込みがあり41人が見学している。当面は、現在行っている職員立会方式を継続していきたい。開放については、今後、地域の方々の意見も聞きながら検討していきたいと考えている。 本来、花巻電鉄は馬面電車とそれより広い電車との異なる編成で運営されていたが、廃線になった際、馬面電車のみを残し、他の編成の車両を残さなかったことは残念なことであった。いずれ、今はこの一両しかないことから、財源の問題もあるが、まずは応急処置をしながら、今後永く、例えば100年以上残していくためには抜本的な修繕が必要であり、そのための調査をするよう担当課へ指示している。少し時間はかかると思うが、いずれ地域の方々には、今後の対応が決まった際にはお知らせしたいと思っている。
5	H30.11.16	市政懇談会	花西	建設部	公園緑地課	ぎんどう公園の整備について	ぎんどう公園の入り口に桜の木があったが、桜を切る段階で地域住民が大騒ぎとなったことがあった。また、道路にはみ出した巨木があり、伐採されたこともあった。ぎんどう公園は、旧花巻農業学校があった場所で、賢治の史跡のような形で整備された公園である。交通に支障がある等やむを得ない事情もあると思うが、地域の観光資源として重要な公園であることも考えた上で整備いただくようお願いしたい。	盛岡市でも、県庁前のヒマラヤ杉も伐採することとなり、大騒ぎとなっていたが、大きくなりすぎて倒木の危険があるためやむを得なかった事情はあると思う。ぎんどう公園も以前、木を伐採してしまった経緯はあるが、ゆかりの木を大事にする意識は、担当課でも持ってもらう必要があると思う。今後は、このことも注意して整備することとしたい。
6	H30.11.16	市政懇談会	花西	生涯学習部	賢治まちづくり課	宮沢賢治ゆかりの地への案内板の設置について	以前、観光客にカラタチ坂の場所を聞かれたが、案内看板もなく、自分も詳しい場所は分からなかったため教えてあげることができなかった。カラタチ坂は宮沢賢治が花巻農学校に行く際に、よく通ったと言われており、賢治ゆかりの場所だと思うことから案内看板を設置してほしい。	本市では、平成25年～平成27年度、観光客や市民に、賢治ゆかりの地を巡ってもらうため「賢治ゆかりの地案内板」を設置した。ゆかりの地は、賢治関係団体や各地区コミュニティ会議等からの意見を取りまとめ選定された。今後、関係団体等からゆかりの地として案内板設置の要望があった場合、検証し必要と判断されれば、現在の看板に追加表記するなどの対応を検討する。 →賢治まちづくり課確認。「からたち坂」は賢治の短歌に見られ、藤沢町から農学校へ上るいずれかの坂と推定されているが、具体的に確定できない状況。
7	H30.11.16	市政懇談会	花西	生涯学習部	賢治まちづくり課	宮沢賢治のアニメキャラクターの活用について	最近、芥川龍之介や太宰治等の文豪が出てくる漫画「文豪ストレイドッグス」という作品が若者達の間で人気となり、これがきっかけで文豪達の生まれ故郷を巡る若者が増えてきているようだ。この作品には宮沢賢治も出ており、著作権の問題もあると思うが、このアニメのキャラクターを使って花巻市をPRすることで花巻市を訪れる若者も増えると思うのでぜひ検討願いたい。	お話のあった作品が、若者に人気があることは承知しているが、この作品に出てくるキャラクターは実物とは全く違い、宮沢賢治も若い少年として描かれている。この作品をきっかけとして興味を示してくれる若者もいると思うが、宮沢賢治については、難しい面もある。 実は昨年、宮沢賢治童話村がアニメの聖地に認定されその取り組みの一つとして、寺院巡りの御朱印帳と同じようなスタンプを用意しており好評を得ている。賢治フェスティバルや様々な機会を通じて周知を図っているが、若者に対しても、さらにPRをしていきたいと思っている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H30.11.16	市政懇談会	花西	建設部	都市政策課	宅地開発の届け出等の際の対応について	北万丁目地区では、農地を宅地化する動きが活発化しており、今年に入り3箇所で作成工事が進みほぼ完成している。いずれこの宅地に家が完成し、仮に10戸の世帯が移ってくるとすれば、現在使われているごみの集積所は、満杯になってしまうことが想定される。そのため市の担当者に事前に宅地開発等の申請や相談があった際は、新たにごみ集積所を設置を検討するよう開発業者に前もって指導していただけないものかと相談したが、この場合には、指導となる開発行為の要件には該当しないため難しいと言われた。法律上の要件等の基準はあると思うが、宅地ができ住民が移り地域の世帯が増加するとごみ集積所の問題は必ず起こることからも、業者から宅地開発等の相談があった際には、市から業者に対して指導をお願いしたい。	市では市街化区域と市街化調整区域を分けていないためこのような問題が起きてしまう。市では、立地適正化計画の中で居住誘導区域外に3戸以上宅地開発を行う際は、届け出が必要。お話しいただいた箇所が区域外かはわからないが、区域外であれば市に届け出はしているはず。この届け出や宅地開発等の相談が担当課にあった際、ごみ集積所の設置について業者に対して市の担当者から確認するような仕組みがあったほうが良いと思う。法律上の問題もあり指導までは難しいと思うが、この旨は担当部署に伝えることとしたい。 →都市政策課確認。ごみ集積所設置等の担当者が確認する仕組みについては、立地適正化計画に係る届け出(都市再生特別措置法に基づく3戸以上の開発行為(宅地分譲等)、または、3戸以上の住宅新築(集合住宅も含む)の届け出)があった場合、今後、生活環境課と協議するよう届け出者に対し案内することとした。
9	H30.11.16	市政懇談会	花西	建設部	道路課	材木町の街路樹の落ち葉対策について	材木町の街路樹だが、例年この時期は枝を切っているはずだが、今年はまだ切られていない。既に紅葉が終わり落ち葉が散らかって大変である。 花西地区分(花巻税務署から五内川オートの間)で良いので花巻まつりが終わったら切ってもらえばよいと思うが。	何か理由があって遅れているのかもしれない確認する。毎年やるべき時期に、やってもらったほうがよいと思うのでこのことは担当課に伝える。 街路樹があると落ち葉の問題は必ずおきる。これは、年に1回は市の予算でやることも考えるべきだと思うが、市民からいただいた税金も限られていることから、落ちた都度ではできない。 そうすると街路樹をやめるのか、または、街路樹の近くに住まわっている方々には申し訳ないが、落ち葉は少し我慢してもらうかのどちらかだと思う。 街路樹は市内で1万数千本と、とても数があるため長い期間放っておくことは良くないと思う。だが、私は、落ち葉が散らかっている期間は数週間程度であれば、我慢してもらい、やはり街の景観のためにも街路樹はあった方がよいと思う。 →道路課確認。材木町公園西側の街路樹の剪定は、隔年で実施しており、平成29年度に剪定したことから、平成30年度は剪定を行わない予定。この旨発言者に連絡し、了(11/19)。
1	H30.11.21	市政懇談会	新堀	教育部	教育企画課	小学校の統合について①	市総合教育会議で石鳥谷地域の小学校を1校にすることを基本とする方針案が了承されたと8月初旬に新聞報道があった。地域に小学校がなくなる影響はとて大きい。なぜ、このタイミングでそのような方針になったのか経緯と今後の方向を伺いたい。 前田小学校や笹間地区の例など単純に数字合わせではなく、各地域住民とも協議しながら、また、子供達にとって最も良い教育を提供することをじっくりと考えて頂きたい。石鳥谷町では、昭和42年に中学校を統合する際、新しい校舎の場所をどこにするかなど大きな議論があった。当地域は中央部に北上川があり、設置場所ひとつでも住民感情があると思うので、慎重に取り組んで頂きたい。	8月の報道内容には報道機関の紙面の都合で私達の想い全てが紹介されずに直ちにその方向に向かうような印象を受けられ大変驚かれたと思う。 学校教育においては、情報化やグローバル化に対応するために外国語の学習や道徳の強化が実施されている。さらに、少子化も相まって、今後も教育環境が大きく変化していく。 今回の方針案は、そのような背景や小中一貫教育という新たなシステムも出た中でこれからの適正配置についての案として検討したものだ。10年ほど前にも方針案を策定し進めてきたが、少子化がさらに加速化していることなどからそれでは対応出来ないと考え、平成27年度から有識者会議のほか、保育園や幼稚園、小中学校PTA等の方々とのワークショップ、教育委員会、さらに総合教育会議の中で協議してきた。この様子を皆さんにお知らせする努力が足りなかったと反省している。 少子化の現状として、児童生徒が2~3%ずつ減少しており、1-2年生、3-4年生、5-6年生の3学級とする小規模複式学級が3校あるが、その形式を維持出来ない学校も予想されている。石鳥谷地区については、単純に出生数から推計すると大きく減少することが見込まれ、ワークショップ等の沢山の意見を基にこのような案を策定した。直ちに実施するのではなく、中学校区単位で説明会を開催したほか、今後も保育園・幼稚園や小学校PTA単位での学習会を予定している。そこで頂いた意見を基に練り上げ、さらに市民の方々へお知らせし意見を取りまとめながら時間を掛け丁寧に実施案へと進めて参りたい。 学校は、先生の教えを頂きながら子供達同士が切磋琢磨し生きる力を培う場であるが、一方では保護者や地域文化との関わり抜きにはやっていけない。双方から捉えながら慎重に進めて参りたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
2	H30.11.21	市政懇談会	新堀	教育部	教育企画課	小学校の統合について②	<p>自分の子供が小学校在籍時にはPTA会長を、中学校ではPTA副会長をした。その当時からではあるが、PTA会員数が減少し役員決めが大変になっている。そのような現状を考えると、統合によりPTAが活動しやすくなれば良いと思う。個人的にも統合するのが自然の流れとと思っているので、統合は進めて頂きたい。</p> <p>なお、地区行事等で小学校を使用している例もあるので、統合後の現校舎等のあり方も考えて頂きたい。</p> <p>私はかつて小学校の教師をしていた。初任は、小学3年生43人の担任だった。人数が多く苦労はしたが凄く楽しかった。現在の新堀小学校を見ると、昨年度まで行政区長だったので来賓として入学式に行った際、1年生14人と少なく寂しいと感じた。人が多いと活気があり部活等も色々なクラブが作れるので、ある程度の人数で子供たちの個性が発揮できる方向性が良いと思う。ただし、突然新聞掲載されたことで不安に思ったので、進め方は慎重にお願いしたい。</p>	<p>小中学校の適正配置の方針案に対して突然の印象を持たれた事に対しては、大変申し訳なかった。新聞紙上の「早期に学校統合について検討を始める」との表現に不安を感じたかもしれないが、あの表現は正確ではなかった。小中学校について具体的な統合方針が決定している訳ではなく、今後も小学校児童数の減少が見込まれ、複式学級や10人足らずのクラスになることも予想されることから、早い段階から皆さんにも考えて頂き意見も頂きながら話し合うための試案の段階で出したもの。本日、統合に前向きなご意見が多いことに少し驚いているが、じっくり話し合いをしていくことになる。</p>
3	H30.11.21	市政懇談会	新堀	健康福祉部 教育部	国保医療課 こども課	子育て支援について	<p>少子化は全国的な問題ではあるが、若い人に子供を産めと連呼しても効果が無いと思う。子育て支援で手取り早いのはお金をあげることだと思うが、市の財政も限られている。今年行政区長となって感じるが、日本赤十字への寄付など100%近い集金となっているので、何か団体を組織して各世帯から寄付を募りながら出産祝い金を出すのも良いのではないかと考える。</p>	<p>子育て支援については、医療費助成では未就学児の病院窓口での支払いがない現物支給(無料化)や、これまでは小学生までが対象だった医療費助成(所得制限・自己負担あり)を本年10月から中学生へ対象を拡大して取り組んでいるほか、県の考え次第ではあるが現物支給の拡大も検討している。他にも、若い方の定住を図るために親世代と同じ地区での住宅取得に対し30万円を補助する制度を4月から始めるなど様々な取り組みをしている。</p> <p>祝い金については、年間約600人の出生に対して仮に10万円ずつとしても6,000万円となり財政的に厳しい。皆さんから少しずつ集めるのは素晴らしいアイデアだが、自治会費ですら高いとの若い方々の意見もある中で抵抗もあるのではないかと考える。</p> <p>子育てにはお金が掛かるので苦労されている方も少なくないと思う。現在、国では幼児教育の無償化が取り沙汰されているが、市では保育園の待機児童解消や医療費助成に力を入れ取り組んでいる。また、就学後も給食費や学用品などの支援を行っている。子育て支援として工夫の余地がまだあると思うが、祝い金制度についてはご意見として参考させていただく。</p>
4	H30.11.21	市政懇談会	新堀	建設部 石鳥谷総合支所	道路課 石鳥谷総合支所 地域振興課	北上川の築堤について	<p>北上川の築堤については毎年お伺いしているが、新堀地区は北上川の氾濫で浸水被害が多く発生し、以前から要望しているが、早期に北上川左岸の築堤を完成してほしいと願っている。築堤工事は上流から進められているようだが、新堀地区の着工がいつ頃になる見通しなのか現在の状況を伺いたい。</p>	<p>数年来、国交省の本省や東北地方整備局の局長に会い要望しているが、傾向として整備が少し遅れている。3~4年前までは平成30年代前半という言い方だったが、現在はそんな言い方はしていない。先日の鬼怒川の大洪水や西日本の台風被害等の災害への緊急対応のほか、一関の遊水池整備などにお金が掛けられている。また、南海地震に備えるという国の考え方もあり、西日本にお金を掛けなければならない状況がある。さらに、人家(床上浸水被害)の無い場所は整備が遅れると言われており、新堀と八重畑に関しては人家被害が少ない状況である。</p> <p>今年、区長さんが要望に行ったことを国も重要に受け止めている。国も住民に説明しなくてはいいけないと考えている。私も今年度中に国から住民へ説明してもらいたいと思っている。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
5	H30.11.21	市政懇談会	新堀	農林部	農政課	減反政策廃止による市の農政政策について	<p>今年から減反政策が廃止になり、本年は米の価格が若干上がるものの増産による価格の変動等で農家の経営が厳しい状況になるのではないかと危惧している。減反政策廃止による農家に対する国や市の新たな仕組みや支援策について伺いたい。</p> <p>高齢化などでリンゴの木を伐採し栽培を止めたり、野菜の作付面積を減らす傾向となっており、生産を拡大する方向にはなっていない。当事者は勿論、地域の農業収入が減り、市全体の農業収入も減る訳で、今後の農業をどのように転換していけばよいのか、現段階で分かる範囲で伺いたい。</p>	<p>平成30年産から主食用米の生産数量目標の配分が廃止されているが、国の需給見通し等の情報が各県の農業再生協議会に、さらに地域ごとの農業再生協議会に入るので、これまでの強制的なものではなく米価が安定する目安を農協を通じ各農家にお知らせしている状況である。なお、市内では、集落営農組織や農業法人が水田を経営している所も多くなってきており、食用米のほかに麦・大豆・飼料用米、ミニトマトやピーマンなどの園芸作物で所得確保を図っている。水田活用の直接支払交付金や産地交付金としての転作作物への助成が平成30年以上以降も続いていくので、今後も園芸作物など転作作物への支援をしていく。</p> <p>加えて、農業従事者の高齢化や後継者不足への対応として、農作業の省力化や低コスト化を推進するために、自動操縦システムや農業用ドローンなどICT技術の活用、スマート農業の取り組みを継続して支援していく。</p> <p>また、飼料用米への恒久的な支援やコメの需給安定に資する新たな支援策等も国県へ要望して参りたい。</p> <p>高齢化が進みリンゴの生産が増えないのはその通り。「リンゴスター」など若手が頑張っているほか、リンゴサイダーや林檎酒の特産が認められたのでそれらの支援をしたいと考えているが、生産量を増やす方策はもう少し検討しなければいけない。大迫の場合は、葡萄生産量は最盛期の半分位だが、今年になってほんの少し増えている。これは、外から農業従事者を呼び込んだことがあったため。</p> <p>リンゴも機械化等を進め、高齢者でも出来るとか若い人が農業で生活できる広さで生産できるよう支援することが考えられる。</p> <p>米については、生産調整が廃止され7,500円の交付金がないと辛いが、食用米の生産は全国的には西日本、県内では県北が減っているのに対し、花巻市は圃場整備が進み条件も良くお米の評判も良いので食用米の生産が増えても十分販売できると思うが全国的な生産量が増えると価格に影響するため、花巻も安易に増産することには慎重でなければならぬ。あとは、超高級でなくとも十分売れるのであれば、集約化、法人化、機械化をしながら生産コストを下げた農業で生活できるようにすることが大事だと考える。</p>
6	H30.11.21	市政懇談会	新堀	石鳥谷総合支所	石鳥谷総合支所 地域振興課	道の駅「石鳥谷」の再編について	<p>この件についても毎年お伺いしているが、道の駅「石鳥谷」の施設全体の再編構想の検討状況はどうなっているか、構想に基づく全体的な着手、完成の見通しはいつ頃になるのか伺いたい。</p>	<p>南部社氏伝承館の展示をリニューアルすることでスタートしたが、一般財団法人日本みち研究所の支援を頂き、現在伝承館だけでなく、道の駅全体を見直す案を検討している。</p> <p>駐車場の広さやトイレの場所などが課題で、それらを国にやって欲しいため、岩手河川国道事務所や東北地方整備局に協議している段階である。トイレを移すことはやってくれると思うが、駐車場の拡張はまだ分からない。国がどこまでやってくれるかの前提であるが、駐車場を拡張できれば、伝承館の位置を移すことも出来るし、りんどう亭や酒匠館が使い易くなる。国の方針が出てくるのは来年度以降と思うが、我々もアイデアを固め予算も考えていく。</p>
7	H30.11.21	市政懇談会	新堀	生涯学習部	生涯学習課	花巻図書館の建て替えについて	<p>自分は新興製作所に勤め読書おもいで帳に関わっており、仕事柄全国の図書館を回る事が多い。花巻市立図書館を新しくする話が出てから相当時間が経過していると思うが、どのように進んでいるのか伺いたい。</p>	<p>外から見ると何も進んでいない様に見えるかもしれないが、しっかりやっている。例えば、豊沢橋の架け替えも工事が止まっていると散々言われたが、1年半掛けて工場で橋げたを製作していたし、また、花巻病院の移転についても1年ほど掛けて岩手医大理事長や中部病院長、保健事務所、医師会等とずっと話をし、皆の賛成を頂いた。図書館についてもそのような状況で、今は関係者と話をしている段階である。出来るだけ早く公表したいが、相手がある事なので市だけで進める訳にもいかない。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H30.11.21	市政懇談会	新堀	石鳥谷総合支所	石鳥谷総合支所 地域振興課	道路側溝の補修について	個人的な事で申し訳ないが、県道石鳥谷大迫線で自宅前のU字溝が壊れており、業者に相談したところ勝手に直せないと言われた。どのようにすれば良いか教えて欲しい。	県道なので県に作業してもらわないといけないので、場所を確認し県に伝えることにする。 →翌日(11/22)、現地確認のうえ、県花巻土木センターへ連絡済み。
1	H30.11.26	市政懇談会	花北	市民生活部	生活環境課	脱炭素社会の実現に向けて①	国は、今年7月、脱炭素社会を実現するため、再生可能エネルギーを「主力電源」に位置づけ、更なる普及・促進を図ることを決定した。これを踏まえ、再生可能エネルギーを利活用、地産地消システムの構築を目指すことについて、花巻市としてどのように考えているのか伺いたい。 関連して「北日本新エネルギー社会構想」が急浮上しているが、これについて花巻市の所見を伺いたい。	市では、平成28年3月に策定した第2次花巻市環境基本計画における地球温暖化防止に向けた施策として、二酸化炭素の排出抑制及び再生可能エネルギーの導入推進を位置付けており、二酸化炭素の排出抑制においては、公共施設の照明設備や街路灯のLED化、公用車として低公害車の積極的な導入、公共施設の改築や新築に合わせた太陽光発電設備の導入推進、地域公共交通の充実推進のほか、花巻市役所地球温暖化対策実行計画に基づき市の施設や事業における二酸化炭素の排出抑制に努めている。市民に対しては、市ホームページや広報等を活用した省エネ対策や再生可能エネルギーなどの情報発信を行い啓発・普及に努めている。 再生可能エネルギーの導入推進においては、本市の豊かな森林資源の有効活用と林業振興及び地域経済の活性化を図るため、平成28年度には木質バイオマス発電事業を行う株式会社花巻バイオマスエナジーの立地に際し補助金交付等の支援を行ったほか、同事業による売電開始後は、小売電気事業者を通じて市内小中学校にも供給されており、一つの地産地消の例となっている。また、市内において進められている小水力発電は安定した発電方式であり、地産地消エネルギーとしての活用が期待されている。 市では、引き続き第2次花巻市環境基本計画に基づき、地球温暖化防止対策としての再生可能エネルギー導入推進の姿勢に変わりはないが、別な視点から見ると、再生可能エネルギーの発電施設は、設置に際しての開発などに伴い生活環境や自然環境、景観への影響が懸念されるところであり、市としては地域の豊かな自然環境を次世代に繋いでいくという観点から、環境との調和が図られることを前提とした再生可能エネルギーの導入推進となるよう努めていきたい。「北日本新エネルギー社会構想」の内容は承知しているが、東北は、風力や地熱など再生可能エネルギー開発のポテンシャルが高いといわれており、岩手県企業局の大規模風力発電所を一戸町に完成する等、県内においても設置が目立ってきている状況。一方で施設整備には、景観や自然環境への影響、あるいは希少生物への影響も心配され、環境との調和は大事であると思っている。再生可能エネルギーの技術の進展に伴い導入や発電に係るコストは下がるとされているものの、導入に伴う経済的負担が大きいほか、安定供給や維持管理などに関する課題も少なくないことから、福島県での先進的な「新エネ社会構想」の取り組みの推移に注目しながら、汎用的な社会システムとして発展していくことを期待したい。
2	H30.11.26	市政懇談会	花北	市民生活部	生活環境課	脱炭素社会の実現に向けて②	大企業の経済界では、新しいエネルギーの導入を積極的に進めている。これまで、電力は、東京電力や東北電力等の大手電力会社が一極集中で独占していたため大震災などの災害が発生すると弊害があったことから、今後は分散型の発電所をたくさん作っていく必要がある。 今は、100年に1度のエネルギーの大変換期と言われており、福島県では積極的に取り組みが進んでいる。花巻市でも決して後ろ向きではなくもっと積極的な姿勢で真剣に取り組んでほしい。	市でもエネルギー構造の変換期であることは、認識している。再生可能エネルギーの導入には、自然との調和が大事であると先ほどお話ししたが、これらを踏まえた上で推進していくべきと考えている。 福島県の取り組みも、定着して拡大していくことは非常に良いことだと思っている。市でも再生可能エネルギーに関する取り組みには注目し、時代の動きに取り残されないよう情報収集しながら勉強していきたい。そして、市民への適切な情報提供等に努めたい。
3	H30.11.26	市政懇談会	花北	教育部	学校教育課	市内小中学校における教員の勤務実態について	教員の多忙化問題が新聞で色々報道されている。これは本来、国策として考えるべき問題であると思うが、花巻市内の小、中学校における教員の勤務実態はどうなっているのかお聞きしたい。	本日は担当部署の職員が不在のため後で確認する。 →翌日(11/27)に発言者から直接、教育委員会に問合せがあり、勤務実態について説明済、発言者了。
4	H30.11.26	市政懇談会	花北	財務部	財政課	今後の市の財政見込みについて	広報9月号を記事を見たところ、一般会計の市税は3,100万円増えたようだが、地方交付税が6億5千万円減となっていた。合併特別債も使えるのはあと5〜6年。そうすると、国からの交付税は減らされますます市の財政が厳しくなると思われるがどう考えているのか。	平成18年1月1日に1市3町が合併して今の花巻市となったわけだが、地方交付税は、合併算定書によって、いきなり行政コストが減らないため合併しなかったとして10年間交付税を計算する特例があり、合併後11年目以降、5年間かけて段階的に縮減となる仕組みとなっている。 そのため市でも、地方交付税が今後も数年間かけて徐々に減少していることは織り込み済みであり、これらも考慮しつつ、今後も適切な財政運営に努めていきたいと考えている。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
5	H30.11.26	市政懇談会	花北	建設部	都市政策課	花北地区の活性化について	これまで中心市街地活性化のため、上町周辺に多くのお金が投入されたと思うが、平日、祭日共に通行人は少なくあまり効果は感じられない。中心市街地は上町周辺という固定観念に捉われず、花北地区の活性化のためにも市の予算を使っていただくようお願いしたい。	上町周辺は、活用されない建物がそのまま残っていたことから、リノベーション等の手法により、できる範囲で整備をして活用する取り組みがされている。総合花巻病院の移転も、旧厚生病院跡地が長期間に亘り、活用されずそのまま残っていたが、県から土壤汚染除去費用を含めない価格で譲渡いただき、来年の完成に向けて建設が進んでいるところである。 元々、花北地区(一日市、四日町付近)が市の中心地だったという話もお聞きしたことがあるが、まずはまちの活性化に向けて着実に進めていきたいと思っており、御理解いただきたい。
6	H30.11.26	市政懇談会	花北	健康福祉部	地域医療対策室	総合花巻病院の手術室について	来年9月に完成する総合花巻病院だが、手術室は設けるのか	総合花巻病院の手術室は、2室は設ける予定と伺っている。
7	H30.11.26	市政懇談会	花北	教育部	教育企画課	市内小・中学校へのエアコン設置について	今年は、猛烈な暑さのため熱中症患者が多く出たようだが、市内各小、中学校へエアコンを導入する計画はあるのか。	教育委員会では、国からの予算が想定どおり回ることが前提となるが、なるべく来年夏に間に合うように6月までに市内の小、中学校の全普通教室にエアコンを設置したいと聞いている。
8	H30.11.26	市政懇談会	花北	財務部	契約管財課	まん福の活用について	市では、まん福だった建物を購入したが、耐震診断や様々調査をした結果、使用できないことが判明。その後もそのままの状態となっているが、何か活用を考えているのか。	現時点でまん福の活用については何も決まっていない。
9	H30.11.26	市政懇談会	花北	建設部	都市政策課	旧中央公民館跡地及び総合花巻病院跡地の活用について	幸橋のところにある旧中央公民館跡地だが、現在は駐車場として利用されているが、もっと他に何か有効活用するべきではないか。また、総合花巻病院移転後の跡地の活用は決まっているのか。	旧中央公民館跡地は、現時点で活用する予定はない、総合花巻病院跡地の活用については、現時点で花巻図書館の移転先が決まっておらず、まずは移転先が決まってからの話となる。